

国分寺市障害者基幹相談支援センター事業

令和2年度 国分寺市相談支援スキルアップ研修 ネットワーク研修Ⅰ（地域移行） 「地域移行支援 in 国分寺～地域移行支援ワーキンググループ活動開始報告」 報告書

日時	令和2年12月22日（火）	場所	cocobunji プラザ リオンホール A
	午後1時30分～午後2時30分	主催	国分寺市障害者基幹相談支援センター

1. 研修内容および講師

- 午後1時30分～1時35分 研修開会挨拶
- 午後1時35分～1時55分 「東京都精神障害者地域移行体制整備支援事業から考える現状と課題」
講師：津川 孝治 氏
東京都多摩総合精神保健福祉センター 地域体制整備担当
- 午後1時55分～2時15分 「東京都地域移行体制整備支援事業から見た国分寺市の退院促進について」
講師：毛塚 和英 氏
地域生活支援センタープラッツ 東京都地域移行コーディネーター
- 午後2時15分～2時30分 「国分寺市障害者地域自立支援協議会 精神保健福祉部会からの報告」
報告：伊澤 雄一 氏
国分寺市障害者地域自立支援協議会 精神保健福祉部会長
社会福祉法人はらからの家福祉会 総合施設長

2. 参加状況

参加人数：11名

地域活動支援センター	1名	地域活動支援センターつばさ
相談支援事業者	1名	地域生活支援センタープラッツ
障害福祉サービス事業者	1名	はらからの家福祉会ピア国分寺
訪問看護ステーション	1名	訪問看護ステーション音
行政	7名	多摩立川保健所・国分寺市生活福祉課・国分寺市障害福祉課 国分寺市健康推進課
参加者合計	11名	

他、事務局5名参加

3. 研修内容

報告①「東京都精神障害者地域移行体制整備支援事業から考える現状と課題」

講師：津川 孝治氏 東京都多摩総合精神保健福祉センター 地域体制整備担当

配付資料に基づき、障害福祉計画と長期入院者構成の変化、東京都地域移行体制整備支援事業の取組、圏域別会議自治体アンケートの考察、地域移行の実態の考察、今後の地域移行支援について説明があった。精神障害者の地域移行に関する国の動きと東京都の取組の経緯に触れながら、東京都の障害福祉計画の成果目標や自治体（圏域）別の地域移行支援の現状等について、数値データを示しながら報告があった。地域移行を引き受ける一般相談支援事業所が少ない、計画相談を受ける事業所が手一杯など地域側の体制の問題や、現場の流れに整備が追いついていない課題（制度の使いにくさ）が挙げられた。

地域の実情を踏まえつつ、入院も社会資源の活用の一つと捉え、「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム（以下、「にも包括」という）の構築」に向けた協議の場等を活用しながら、地域の暮らしを支

えていく上での支援のあり方等について分野を超えて情報共有し、地域の支援力向上に向けて取り組んでいくことの重要性について確認・共有した。

報告②「東京都地域移行体制整備支援事業から見た国分寺市の「退院促進」について」

講師：毛塚 和英氏 地域生活支援センタープラッツ 東京都地域移行コーディネーター

配付資料に基づき、「にも包括」の考え方、東京都精神障害者地域移行体制整備支援事業の取組の変遷や地域移行コーディネーターの関わり等について説明があった。

「にも包括」とは、精神障害者が地域の一員として、安心して自分らしい暮らしを実現するための基盤整備であり、地域生活を中心に据え、住民一人ひとりの生きがいや地域共生社会の実現にも寄与する仕組みである。また、「にも包括」の構築・推進に向けては、入院患者に地域生活のイメージを促し、不安の解消や退院意欲の喚起につなげていくピアサポートを活用した取組（LP 活動）が重要であり、その取組の実際と有効性について報告があった。

円滑に地域移行を進めていくうえでは、病院と地域の支援関係者の強固な連携が不可欠であり、さらに行政の協力を得ながら官民協働で取り組んでいくこと、また、当事者もチーム（地域）の一員として、一緒に取り組んでいくことの重要性について確認・共有した。

報告③「国分寺市障害者地域自立支援協議会 精神保健福祉部会からの報告」

講師：伊澤 雄一氏 社会福祉法人はらからの家福祉会 総合施設長、精神保健福祉部会長

配付資料に基づき、令和 2 年度における精神保健福祉部会の取組について報告があった。国分寺市では、精神保健福祉部会を「にも包括」の構築に向けた協議の場と位置づけ、地域移行に関わる研修（地域移行ネットワーク研修、北多摩西部圏域研修）と連動した動きを意識しながら、システム構築の道筋を描いている段階であることを共有した。また、令和元年度に実施した長期入院者の実態把握に向けたアンケート調査（対象：国分寺市民が 1 年以上入院する 31 医療機関）の結果を共有し、精神保健福祉部会の取組の成果から見てきた課題を整理するとともに、令和 2 年度の取組状況（地域移行ワーキンググループの編成や根岸病院への訪問等）の報告を行い、精神保健福祉部会の今後の取組の方向性や展開について確認・共有した。

4. まとめ

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、例年 5 月に開催する本研修を一旦延期とし、コロナ禍においても開催可能な内容に企画を変更するとともに、参加者の規模を縮小し、第 3 回精神保健福祉部会と同日開催とした。

当初の企画では、昨年度、精神保健福祉部会において精神科病院に向けて行った「長期入院の実態把握のためのアンケート調査」を基に、国分寺市における「にも包括」の構築や、地域移行支援の取組について、精神科病院や地域包括支援センター等の他分野との連携も含め、さらに具体的に検討を進める予定とした。しかし、コロナ禍の状況を鑑みて参加対象を絞り、アンケート結果や退院支援ワーキンググループの発足等について、市内の関係機関と共有する内容とした。

東京都精神障害者地域移行体制整備支援事業の担当者および地域移行コーディネーターを講師に迎え、取組の概要や「にも包括」の構築に向けた考え方等について、基本的な知識や情報を共有した。それと同時に、制度としての現状と国分寺市の取組について、改めて理解を深め、今後、国分寺市における具体的な地域移行支援を進めていく上で必要となる支援の視点や連携の重要性等について共通認識を図る機会となった。

次年度は、コロナ禍においても例年どおり 5 月の開催を目指す。開催方法や企画内容の工夫と感染症対策を講じながら、精神科病院との具体的な連携に向けた意識を共有し、精神保健福祉部会や地域移行ワーキンググループの取組（病院との関係づくりや個別支援）につなげていく。

令和 2 年 12 月 22 日開催

国分寺市障害者基幹相談支援センター事業（国分寺市委託事業）

令和2年度 国分寺市相談支援スキルアップ研修会 ネットワーク研修Ⅰ
地域移行支援 in 国分寺～地域移行支援ワーキングチーム活動開始報告～

アンケート集計結果 参加者：11名 アンケート回収：5名（回収率 45%）

1. 本日の研修はいかがでしたか。

たいへん参考になった : 5名 (100%)
参考になった : 0名
普通 : 0名
あまり参考にならなかった : 0名
その他 : 0名

- ・LP（ライフパートナー）の実際や、ワーキンググループの活動報告から病院の現場の声を知ることができ、参考になった。
- ・都の地域移行支援事業者がどのような状況にあるのか、今後の取組を考えるうえで参考になった。
- ・全体像として、国分寺の活動の進み具合が理解できた。

2. 今後、実際の業務で取り組みそうなことは見つかりましたか？具体的にお書きください。

見つかった : 3名 (60%)
見つからない : 0名
どちらともいえない : 2名 (40%)

- ・病院も地域資源と考えて、積極的にやりとりや連携ができればと感じた。
- ・「住まいを増やす」ことに対して、自分たちができることを検討する。
- ・地域移行支援を多く支給決定している自治体は、病院との連携が良き宇取れているという考察をきき、病院との情報交換含め、今後はより関わっていけたらと思う。
- ・訪看としての早めの休息入院の評価、地域に早めに戻す支えとなること。

3. 国分寺市障害者地域自立支援協議会（精神保健福祉部会を含む）に期待すること等ご自由にお書きください。

- ・転居時の住居探しについて、保証会社のことも含め、困難を感じている。不動産会社との連携を入れてほしい。訪看をもっと巻き込んでほしい。

4. その他、今後の研修で取り上げて欲しい内容や研修会への要望等ご自由にお書きください。

- ・家族支援の実際について。

5. 所属している団体についてお教え下さい。

精神科病院：0名 地域活動支援センター：0名 障害福祉サービス事業所：1名
訪問看護ステーション：1名 行政職員：3名 その他：0名